

日刊

# 産業新聞

Japan Metal Bulletin

2021年(令和3年)

3月18日(木)

第20158号  
Since1936

## 大和合金

# 生産量5-6%増加へ

## 21年度車・金型需要が回復

特殊銅合金メーカーの大和合金(本社・東京都板橋区、萩野源次郎社長)は、2021年度(22年3月期)の生産量が前年度に比べて5-6%ほど増える

と見込む。半導体関連の堅調さが続くほか、自動車や金型関連が回復すると予測。航空機のオーバーホール向けの素材も回復の兆しを見せているとしている。

20年度の生産量は、新型コロナウイルスによる上期の落ち込みが影響して19年度比で10%程度減少する見通しだ。だが夏頃から業績は戻り始めており、元の生産量は「底だった8月に比べて3、4割程度回復し新型コロナウイルス禍前の水準まで改善した」と(萩野社長)。好調

だった半導体関連需要に加え、欧米向けのプラスチック用金型関連需要も復調した。現在、工場はフル稼働を続けており、2月から休日出勤を実施。納期が半程度延びている。受注が低迷していた

時期にコスト削減策も強化した。同社はこれまで外部から余分に調達していた原料を適正化するため、工場内スクラップを優先的に使用。仕掛品などの在庫も工程を見直すことで削減に努めた。このほか、生産量の減少に合わせ溶解部門の稼働日を変更して日中のピーク電力を抑え、契約電力を約4割落とすなどした。萩野社長は「コスト削減で筋肉質な財務を実現できた」と話す。